京都府立京都学・歴彩館所蔵の

小袖雛形本

「小袖雛形本」は、「小袖」に施される図柄（構図）のモデルブックで、現代でいえばファッションブックとして活用されました。小袖を求める人と制作する職人を繋ぐ本といえます。これらの本は、木版による単色摺りで、小袖の背側からみた一定の形の中に、細やかな線でさまざまな文様を施した図が一頁に一枚掲載されています。さらに図の余白には文様の題名や染織技法、色彩なども書き込まれ、当時の最新流行を手にとって見られるものでした。

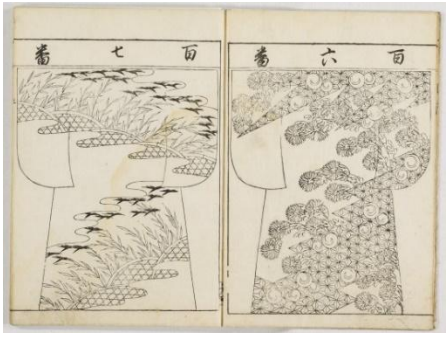
こうした雛形本は江戸時代前期に発達した出版文化と、染織技術の改良、さらに京都・大坂・江戸の三都で活発になった流通が原動力となりました。また庶民の暮らしが豊かになり、衣装への関心も高まり、需要が増えたこともその要因といえるでしょう。

当館で所蔵している小袖雛形本は、江戸時代の 18 世紀から 19 世紀のもので、4 種 7 冊あります。文様がやや類型化し、褄(つま)や裾に模様が集まっていく頃の意匠が中心です。

・『雛形京乃水』(ひいながたきょうのみず)宝永 2 年(1705)刊　上中下巻 3 冊

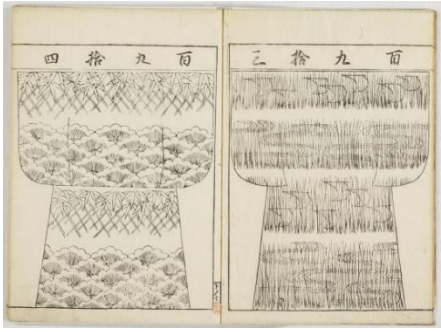
『雛形京乃水』は京都の書肆永田調兵衛(ちょうべえ)が発行したもので、上・中・下の 3 冊全部揃っており、文様の配置にそれぞれ特色があります。上巻は模様を全体に配置した総文様、中巻は模様の中心を下半身においた腰高文様、下巻

は腰を境に上下二段に分けた文様などが集められています。



上巻：106・107 番

中巻：154・155 番



下巻：193・194 番

・『雛形菊の井』（ひいながたきくのい）江戸後期刊　中巻 1 冊

当館は上中下 3 冊のうち中巻のみを所蔵しています。袖の下の余白の所には、模様の配色や染織技法などが細かく書き込まれており、特に 17 世紀後半に開発された友禅染を活かした意匠が多く掲載されています。

60・61 図

・『新雛形名取川』（しんひいながたなとりがわ）享保 18 年（1733）刊　上下巻 2 冊

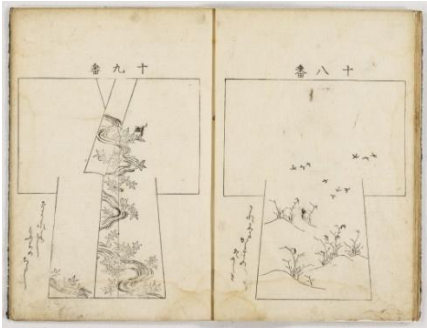
当館は上中下 3 冊のうち上・下巻を所蔵しています。尾形光琳にちなんで 18 世紀前半に流行した光琳文様を多く含む意匠が特徴です。

上巻：116・117

下巻：158・159

・『新雛形千歳袖』（しんひいながたちとせそで）江戸後期刊　上巻　1 冊

当館は上中下 3 冊のうち上巻のみ所蔵しています。江戸時代中期の相次ぐ奢侈（しゃし）禁止令を受けて文様が裾や褄裏に集まる頃のものです。背側の小袖形ではなく前身ごろの半身のみが掲載される図も登場します。



18・19 番

（2016 年 12 月 15 日公開）